

## 令和 7 年度第 2 回 DMAT コーディネーター研修に参加しました（2026/2/5-6）

テーマ：DMAT コーディネーター、本部支援、「尊厳」を守る医療支援活動  
場 所：東京流通センター（東京都大田区）

2026 年 2 月 5 日（木）-6 日（金）、東京都大田区の東京流通センターで令和 7 年度第 2 回 DMAT コーディネーター研修が実施され、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野、日本 DMAT 隊員（統括）、宮城県災害医療コーディネーター）が研修に参加しました。

DMAT コーディネーターは令和 7 年 7 月に新設された制度です。それまで災害時に被災都道府県 DMAT 調整本部や活動拠点本部等で本部支援を行っていた DMAT ロジスティクスチーム隊員制度と、平時に日本 DMAT 隊員への指導やコース企画・運営等を行ってきた DMAT インストラクター制度を一体化させ、新たな資格が生まれました。これによって、災害時の DMAT 活動の中心となる本部活動を長期的に担える人員が増えるとともに、平時の人材育成とあわせた一体的な活動が可能となります。

年 2 回開催されるこの研修に、当日は全国から約 300 人の受講者（DMAT インストラクター・タスク、DMAT ロジスティクスチーム隊員）と約 30 人の DMAT 事務局（東京都新宿区）メンバーが一堂に会し、丸 2 日間朝から夜までのグループ演習をみっちりと行いました。DMAT コーディネーターの意義、資格要件・運用のほか、災害・健康危機管理の本質、指揮系統の確立と運用（機能班運用、情報分析）、病院支援、社会福祉施設支援、被災地域支援（在宅医療、透析、薬品供給、避難所・孤立地域支援）、活動指揮（看護師、介護福祉士支援）、物資支援（電力、燃料、医療ガス、水等）、搬送支援、新型コロナウイルス感染症対応（ダイヤモンドプリンセス号対応、その後のコロナ禍対応、恐怖・混乱・差別との戦い）、人権問題（新型コロナウイルス感染症、ハンセン病ほか）、国際救援などについてグループ討議を重ねました。佐々木准教授は東日本大震災や新型コロナ医療調整の経験から、命を救うことの重要性に加え「尊厳」を守る対応の必要性をグループメンバーに共有しました。

研修の終わりに厚生労働省からの状況提供があり、第 8 次医療計画見直しのポイント（多職種連携の推進、災害時の病院機能維持、止水対策を含む浸水対策、医療コンテナの活用）、災害拠点病院（783 病院）・災害拠点精神科病院（50 病院）・DMAT（1840 隊、18909 名）・DPAT（280 隊、1260 名）・災害支援ナース・災害医療コーディネーター（2595 名）・新 EMIS・国民保護事案などについて現状共有と今後の見通しについて説明がありました（カッコ内の数値は、現時点での全国数値）。

### DMAT コーディネーターの意義

- DMAT の活動の中心は CSCA
- 指揮官（本部）の力量が勝敗を分ける
- DMAT コーディネーター
  - 本部活動を担う
  - DMAT 活動の中核を担う指揮隊
  - 活動の成否を担う

DMAT コーディネーターの意義



朝から夜までのグループ演習を繰り返す  
DMAT インストラクター等受講生

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）